

# 文章題テスト・小説(5)

月 日  
名 前

8  
問正解

★次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ずっとずっとむかし、修平しゅうへいという男の子が、夕ぐれどきの道を考えこみながら歩いていました。

修平は、なかのいい友だちと、学校のでらん会に虫かごをつくって出そうやと、やくそくしたのです。もともと修平は、手さきがきようでしたから、これはひとつ、あたりまえのしかくい、おりのような虫かごとはまったくちがう虫かごをつくってやろうと、思ったのでした。

「どんなのにしようかなあ。」

しきりと、首をひねりながら、まばらな林にはいろいろとしたとき、ふいに修平は、①、うしろにたおれそうになりました。

こしにさげていたべんとうはこのつつみがいきなり、ひっぱられたのです。「だれだあー！」

おこってふりむくと——だれもいません。やぶにひっかけたのかなと思って、修平は、歩き出しました。

すると、また！

くいくいっと、ひっぱられました。

修平は、②、ふりむきました。

やぶが、かさかさとなって、きいろいものが、さっとかくれました。

(ははあん、きつねっこだな。)

<sup>3</sup> 修平は、くすつとわらいました。

このあたりは、ときどき、きつねの出るところです。

<sup>4</sup> 修平は、さっさと歩いていきました。こんなときは、知らんぷりをしているにかぎります。きつねにかまうと、ばかされると、おとなたちにいわれていますから。

(瀬尾七重「きつねの虫かご」より)

(注) まばらな林…木がちらほらと、間をあけて生えている林

① 線1 「考えこみながら」について、次の①、②に答えなさい。


② 修平は、何を考えこんでいたのですか。次の文の□に当てはまる言葉を、十字でいどで書きなさい。

どんな  ということ。

② 線2 「あたりまえの」にもっとも近い意味の言葉を、ア〜エから選んで、記号に○をつけなさい。

- ア かんたんな                      イ ありふれた  
ウ わざとらしい                  エ りっぱな

③ ①、②に当てはまる言葉としてもっともふさわしいものを、ア〜エからそれぞれ選んで、記号を書きなさい。

- ア かくんと                      イ ぶらりと  
ウ じっと                        エ くるっと
- ①       ②

④ 線3 「修平は、くすつとわらいました」とありますが、このときの修平の気持ちとしてもっともふさわしいものを、ア〜エから選んで、記号に○をつけなさい。  
ア ベんとうはこのつつみをひっぱったのがきつねだとわかって、楽しい気持ちになっている。

- イ 小さなきつねと遊ぶことができる、うれしい気持ちになっている。  
ウ やぶにかくれたきつねに、何とかいたずらをしかえしてやろうと、うきうきした気持ちになっている。

⑤ 線4 「修平は、さっさと歩いていきました」とありますが、この理由を次のようにせつめいしました。①、②に当てはまる言葉を、それぞれ文中から五字で書きぬきなさい。

きつねにかまうと  ① と聞いていたので、 ② をしようと思ったから。

①

②